

令和3年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市王喜農村センター
所在地	下関市王喜本町一丁目12番8号
指定管理者	団体名称 下関土地改良区
	代表者 理事長 伊田 喜弘
	団体所在地 下関市大字内日下748番地1
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認に当たっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「目標値の達成度」、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	農林水産振興部農林水産整備課
	TEL : 083 - 231 - 1260
	E-mail : sgnourin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標：施設の利用者数 (単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計
目標値	1,200	1,200	-	-	-	2,400
実績値	842	-	-	-	-	842
差	△ 358	-	-	-	-	△ 358

※目標値は、年度協定にて決定

本年度の目標値である年間利用者数1,200人以上に対し、842人の利用となりましたが、これは新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるものと考えられます。今後も、利用者が安心・快適に利用できる施設の環境づくりに努め、さらなる利用促進を図ることを求めます。

■ モニタリングの総合コメント

本施設は、地域農業者の研修及び集会を行うための施設として設置されたものです。この目的を踏まえて、指定管理者自らが地域農業者団体であるという特徴を生かし、効果的・効率的に施設の管理運営を行い、地域農業の活性化につなげるべく利用促進を図りました。業務内容については、予算の範囲内において適正に執行していました。利用者からの苦情もなく、施設の維持管理、業務の実施についても適切に行われていることから、総合的に判断して良好と評価します。引き続き、適切な施設の管理運営に努めることを求めます。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

本年度以降も本施設の設置目的を推進するため、適切に施設の管理運営を行うとともに、利用者が安心・快適に利用できるような環境づくりに努め、一層の利用促進が図られることを求めます。事業収支では、支出全体の約47%を光熱水費が占めていますが、今後も経費節減に努めるとともに、効率的な予算執行を図ることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

本施設の設置目的である地域農業者の研修及び集会について、条例及び条例施行規則、市と締結した協定に基づき、適切な管理運営が行われていました。また、利用者への対応については、地域農業者が平等に利用できるよう努力していました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)

指定管理者自らが地域農業者団体であるため、利用者の希望をよく把握し、集会等の実施に支障がないよう業務に取り組んでいました。
施設近隣へも配慮しており、懸念が生じれば早めに市に相談し、適切に対応していました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

施設の運営状況については、職員の勤務体制を整え、適切に運営していました。
施設の維持管理についても、適切に実施していました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

事務や報告書類は整理され、経理関係書類や領収書も適切に管理していました。
指定管理者は、自らの地区運営委員会の業務を本施設で行うため、今後も、経理上、指定管理者としての業務の経理と明確に区別することを求めます。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

緊急事態発生時の連絡網が整備されており、安全性について職員への意識の徹底が図られていました。
また、新型コロナウイルス感染症対策として、消耗品費で消毒液を購入するなど、感染症対策についても安全管理が行われていました。

社会性(環境等への配慮)

不要な照明の消灯を徹底するなど節電に心がけ、環境面に配慮していました。

事業収支

経済性

事業収支については、節約に努め、若干の余裕が生じた部分は設備の修繕に活用する等、当初計画の範囲内において適切に執行していました。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された決算書を分析した結果、課題や問題はないと判断しました。

令和4年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市王喜農村センター
所在地	下関市王喜本町一丁目12番8号
指定管理者	団体名称 下関土地改良区
	代表者 理事長 伊田 喜弘
	団体所在地 下関市大字内日下748番地1
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認に当たっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「目標値の達成度」、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	農林水産振興部農林水産整備課
	TEL : 083 - 231 - 1260
	E-mail : sgnourin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標：施設の利用者数 (単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値	1,200	1,200	1,200	-	-
実績値	842	778	-	-	-
差	△ 358	△ 422	-	-	-

※目標値は、年度協定にて決定

本年度の目標値である年間利用者数1,200人以上に対し、778人の利用となりましたが、これは新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるものと考えられます。今後も、利用者が安心・快適に利用できる施設の環境づくりに努め、さらなる利用促進を図ることを求めます。

■ モニタリングの総合コメント

本施設は、地域農業者の研修及び集会を行うための施設として設置されたものです。この目的を踏まえて、指定管理者自らが地域農業者団体であるという特徴を生かし、効果的・効率的に施設の管理運営を行い、地域農業の活性化につなげるべく利用促進を図りました。業務内容については、予算の範囲内において適正に執行していました。利用者からの苦情もなく、施設の維持管理、業務の実施についても適切に行われていることから、総合的に判断して良好と評価します。引き続き、適切な施設の管理運営に努めることを求めます。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

本年度以降も本施設の設置目的を推進するため、適切に施設の管理運営を行うとともに、利用者が安心・快適に利用できるような環境づくりに努め、一層の利用促進が図られることを求めます。事業収支では、支出全体の約50%を光熱水費が占めていますが、今後も経費節減に努めるとともに、効率的な予算執行を図ることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

本施設の設置目的である地域農業者の研修及び集会について、条例及び条例施行規則、市と締結した協定に基づき、適切な管理運営が行われていました。また、利用者への対応については、地域農業者が平等に利用できるよう努力していました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)

指定管理者自らが地域農業者団体であるため、利用者の希望をよく把握し、集会等の実施に支障がないよう業務に取り組んでいました。
施設近隣へも配慮しており、懸念が生じれば早めに市に相談し、適切に対応していました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

施設の運営状況については、職員の勤務体制を整え、適切に運営していました。
施設の維持管理についても、適切に実施していました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

事務や報告書類は整理され、経理関係書類や領収書も適切に管理していました。
指定管理者は、自らの地区運営委員会の業務を本施設で行うため、今後も、経理上、指定管理者としての業務の経理と明確に区別することを求めます。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

緊急事態発生時の連絡網が整備されており、安全性について職員への意識の徹底が図られていました。また、新型コロナウイルス感染症対策として、消耗品費で消毒液を購入するなど、感染症対策についても安全管理が行われていました。

社会性(環境等への配慮)

不要な照明の消灯を徹底するなど節電に心がけ、環境面に配慮していました。
下水道接続工事を実施したため、浄化槽から公共下水道になりました。

事業収支

経済性

事業収支については、節約に努め、若干の余裕が生じた部分は設備の修繕に活用する等、当初計画の範囲内において適切に執行していました。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された決算書を分析した結果、課題や問題はないと判断しました。

令和5年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市王喜農村センター
所在地	下関市王喜本町一丁目12番8号
指定管理者	団体名称 下関土地改良区
	代表者 理事長 伊田 喜弘
	団体所在地 下関市大字内日下748番地1
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認に当たっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「目標値の達成度」、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	農林水産振興部農林水産整備課
	TEL : 083 - 231 - 1260
	E-mail : sgnourin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標：施設の利用者数 (単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	-
実績値	842	778	1,076	-	-
差	△ 358	△ 422	△ 124	-	-

※目標値は、年度協定にて決定

本年度の目標値である年間利用者数1,200人以上に対し、1,078人の利用となりました。目標値を下回った原因は、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月から5類に移行となり、利用者数は昨年度より増加しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響が残っていると考えられます。今後も、利用者が安心・快適に利用できる施設の環境づくりに努め、さらなる利用促進を図ることを求めます。

■ モニタリングの総合コメント

本施設は、地域農業者の研修及び集会を行うための施設として設置されたものです。この目的を踏まえて、指定管理者自らが地域農業者団体であるという特徴を生かし、効果的・効率的に施設の管理運営を行い、地域農業の活性化につなげるべく利用促進を図りました。業務内容については、予算の範囲内において適正に執行していました。利用者からの苦情もなく、施設の維持管理、業務の実施についても適切に行われていることから、総合的に判断して良好と評価します。引き続き、適切な施設の管理運営に努めることを求めます。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

本年度以降も本施設の設置目的を推進するため、適切に施設の管理運営を行うとともに、利用者が安心・快適に利用できるような環境づくりに努め、一層の利用促進が図られることを求めます。事業収支では、支出全体の約49%を光熱水費が占めていますが、今後も経費節減に努めるとともに、効率的な予算執行を図ることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

本施設の設置目的である地域農業者の研修及び集会について、条例及び条例施行規則、市と締結した協定に基づき、適切な管理運営が行われていました。また、利用者への対応については、地域農業者が平等に利用できるよう努力していました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)

指定管理者自らが地域農業者団体であるため、利用者の希望をよく把握し、集会等の実施に支障がないよう業務に取り組んでいました。
施設近隣へも配慮しており、懸念が生じれば早めに市に相談し、適切に対応していました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

施設の運営状況については、職員の勤務体制を整え、適切に運営していました。
施設の維持管理についても、適切に実施していました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

事務や報告書類は整理され、経理関係書類や領収書も適切に管理していました。
指定管理者は、自らの地区運営委員会の業務を本施設で行うため、今後も、経理上、指定管理者としての業務の経理と明確に区別することを求めます。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

緊急事態発生時の連絡網が整備されており、安全性について職員への意識の徹底が図られていました。
また、新型コロナウイルス感染症対策として、消耗品費で消毒液を購入するなど、感染症対策についても安全管理が行われていました。

社会性(環境等への配慮)

不要な照明の消灯を徹底するなど節電に心がけ、環境面に配慮していました。

事業収支

経済性

事業収支については、節約に努め、若干の余裕が生じた部分は設備の修繕に活用する等、当初計画の範囲内において適切に執行していました。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された決算書を分析した結果、課題や問題はないと判断しました。